

江戸時代の姿保つ 大祝諏方家住宅



大祝諏方家の生活に思いをはせながら屋敷を清掃する参加者

屋敷を清掃しながら見学

「諏訪塾」メンバー招き講座

諏訪市教委

今後は市民と活用模索

諏訪市教育委員会は15日、歴史講座「諏訪塾とやってみよう！大祝屋敷おそうじ・見学」を、同市中洲に残されている大祝諏方家住宅で開いた。諏訪の歴史や文化を調査・発信する市民団体「諏訪塾」のメンバーを講師に招き、諏訪明神の神霊が宿る現人神として信仰された大祝諏方家の屋敷を全員で清掃しながら見学。市教委は今後、市民と協力しながら屋敷の活用方法を模索していく。

(作増唱太)

1830年に焼失し、天保年間(1830年)に再建された同住宅。敷地と建物は縮小を繰り返して、現在では居住部分と庭園の一部が残されているのみだが、建物の北側部分は江戸時代の姿を保っているといわれる。2

002年に大祝諏方家が途絶えてからは市が管理。市教委によると、これまで内部はほとんど公開されていなかったが、アニメや映画で諏訪信仰が注目を集めていることを受け、今後は市民団体と協力しながら活用を考えていきたいという。

参加者たちは市博物館でかつての屋敷を再現した模型を見学した後、現存する屋敷に移動して掃除に取り掛かった。ほこりを払ったり雑巾で梁を拭いたりしながら、建物を細かく見学。下諏訪町から参加した70代女性は「今の建物と木の質感が違う気がする。くぎ隠しのデザインも面白い」と楽しみ、大昔調査会の石壁三千穂さん(61)は「江戸時代の様式と近代の神棚などが混ざり合い、時代が入り組んでいて興味深いね」とうなづいた。

一般参加者や関連団体のメンバーら計約40人による1時間ほどの作業で屋敷は美しくよみがえった。参加者の一人が部屋の片隅に置かれていた足踏み式のオルガンに手を置くと温かな音色が響き、近く

「で耳を澄ませていた女性は「懐かしい音…。大祝の子どもたちも喜んでるんじゃないかしら」と感激していた。